



新年挨拶

廃棄物学会会長 山本和夫

明けましておめでとうございます。

本年は、廃棄物学会の新たな展開が見られる年であるように、そのような期待を持ち、新年に望んでおります。

まず次期役員の選挙がもうすぐ行なわれ、新会長を迎えて新たなスタートがきられることが一番に挙げられますが、今期の取り組みとして委員会の再編が実現することも、新たな展開へのきっかけになると予感されるからです。

来年度より、現行の 6 委員会体制が、以下の 4 委員会体制に整理統合されます。

企画運営委員会
学術研究委員会
国際委員会
編集委員会

企画運営委員会は、総務委員会と企画委員会を統合し、学会全体の企画運営を一手に担うものですが、同時に学会事務局の機能強化も図って行く必要があります。学術研究委員会は、年会委員会と研究委員会が統合し、新たに出発するもので、年会やシンポジウムの一層の円滑な運営や、学術研究面での学会活動の強化を狙ったものです。国際委員会は、今後の学会の国際活動への展開の重要性に鑑み、さらに機能強化された委員会に衣替えしますし、学会の基幹事業を担う編集委員会も、より効率的な運営を目指します。

田中信壽前会長及び藤本忠生前副会長のご遺志を、一部ではありますが具体的な形で実現できる運びになりました。これは、ひとえに今期理事会及び評議員にも参加いただいた財政問題等検討委員会、さらに現行の各委員会での、関係各位の学会運営と諸活動のより効率的かつ円滑・迅速な実施体制を目指す建設的な議論が実を結んだものと言えます。

ものごとは何でも変えればよいというわけでは決してありませんが、廃棄物学会は正に転機を迎えており、法人化を目指す体制作りを進めていくためにも、このような変革は必要と言えるでしょう。

「廃棄物」そのものも転機を迎えています。公害対策基本法が環境基本法に一新されたように、循環型社会形成の時代に、かつての産業公害の時代に導入された産業廃棄物等の定義や概念を根本的に見直す時期に来ていることは確かでしょう。廃棄物は決してゼロにはならないわけですから、廃棄物学会として、より普遍的な「廃棄物」の定義や概念を明らかにし、学問としての廃棄物学を確固たるものとする責務があるのではないのでしょうか。現実から遊離して廃棄物学会は存在し得ませんが、また逆に現実には膠着しすぎては学会としての存在意義を失いかねません。

小職の任期も残すところ数ヶ月となりましたが、新しい年を迎え、会員各位ならびに廃棄物学会のさらなる発展を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

選挙管理委員会

第9期役員選挙についてのお知らせ

廃棄物学会第 9 期役員（理事・監事）の選任につき、廃棄物学会会則及び廃棄物学会役員の選任に関する規程にもとづき、次の日程で選挙を行います。

◎告示：平成 18 年 1 月 31 日（火）

（廃棄物学会誌第 17 巻第 1 号並びに廃棄物学会事務局に告示します。）

選挙日程（予定）

◎立候補者の届出：

平成 18 年 1 月 31 日（火）～2 月 20 日（月）

◎投票用紙の発送：平成 18 年 3 月 1 日（水）

◎投票締切：平成 18 年 3 月 22 日（水）

◎開票：平成 18 年 3 月 23 日（木）

◎選挙結果の承認（新役員の決定）：平成 18 年度総会

※ 立候補者及び推薦人は、選挙権及び被選挙権を有する正会員（平成 17 年 9 月 30 日までに平成 17 年度会費を納入した正会員）に限ります。

※ 立候補の届出及び候補者の推薦については、「廃棄物学会第 9 期役員選挙立候補届・推薦届」（選挙権及び被選挙権を有する正会員にのみ送付します）を使用して下さい。

平成 17 年 10 月 14 日

「平成17年度中国・四国支部 廃棄物セミナー」開催報告

平成 17 年 10 月 14 日(金)、山口県周南市において平成 17 年度中国・四国支部廃棄物セミナーが開催された。

午前中は、約 50 人が参加して見学会が行われた。まず、山口エコテック(株)を訪問し、焼却灰のセメント原料化プロセスについて説明を受け、異物除去、粉碎、脱ダイオキシン、脱水濾過などの各施設を見て回った。続いて(株)トクヤマの廃棄物最終処分場およびセメント工場を見学した。あいにくの雨模様のため、車中からの見学にとどまったが、参加者からは熱心な質問が多く寄せられた。

午後は、周南市徳山保健センター検診ホールにおいて、講演会が開催された。約 60 人が参加する中、まず浮田正夫支部長(山口大学)の挨拶があり、続いて重田通正氏(山口県)から「山口県における廃棄物最終処分場の現状」と題して、山口県における一般・産業廃棄物の排出状況と最終処分場の設置状況、産業廃棄物広域最終処分場整備への取り組みに関する講演があった。次に、井上雄三氏((独)国立環境研究所)から「廃棄物最終処分場の現状と課題」と題した講演があり、入れもの(容器)、入れられるもの(埋立物)、入れ方(埋立施工)の視点に基づいた技術的検討やケア、監視、コミュニケーションの重要性について、示

唆に富んだお話があった。最後に、鈴木喜計氏(君津システム(株))から「廃棄物最終処分場と地質汚染」と題する講演があり、地質汚染に関する豊富な現場経験に基づいて確立されてきた調査・対策・リスク回避手法などについて、廃棄物最終処分場と密接に関連したお話があった。講演会終了後は交流会も開催され、お互いの親睦を深めるよい機会となった。

(中国・四国支部 樋口隆哉 記)



▲講演会の様子

平成 17 年 11 月 16 日～20 日

「ハイムーン環境まんが展 in ひろしま」開催報告

平成 17 年 11 月 16 日(水)～20 日(日)に、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて、「ハイムーン環境まんが展 in ひろしま」が開催された。同展は、ハイムーン環境まんが展 in ひろしま実行委員会と廃棄物学会中国・四国支部の主催であり、ハイムーンこと高月紘氏(石川県立大学)の環境まんがの原画 21 点が展示された。ライフスタイルのあり方や環境問題の本質をほのぼのとしたタッチの中に風刺もきかせたまんがの数々に、来場した多くの市民が共感し、自らの生活を見直す機会となっているようであった。本まんが展のために展示されたオリジナル作品「ごみと平和」は、戦争もごみもない持続可能な社会へ向けてのメッセージが込められた作品であった。展示会場には、ごみ問題に関するクイズやごみ減量のアイデア紹介などのコーナーも設けられ、期間中の来場者は約 2,000 人にのぼった。

19 日には、高月先生の講演会およびワークショップが開催された。会場一杯の 120 人を超える市民が参加した講演会では「まんがで環境問題を考える」と題して、ごみ問題にとどまらず地球環境問題も含めて、まんがを用いた分かりやすい示唆に富んだお話があった。続くワークショップでは、34 人の参加者がハイムーン

先生からまんがの描き方の基本を教わった後に、5 グループに分かれて、「2 R (Reduce と Reuse)」をテーマとした環境まんがの作成にチャレンジした。小学生から年配の方までの市民が、自由にアイデアを出し合い、完成したまんがの発表会を行った。ハイムーン先生をうならせるユニークなアイデアに、会場が沸く場面もあり、参加者は貴重な機会を十分に楽しんでいた。

(中国・四国支部 樋口隆哉 記)



▲まんが展の様子

【お知らせ】

韓国廃棄物学会発表論文の募集

2006 年度韓国廃棄物学会研究発表会が、2006 年 5 月中旬に韓国で開催され、例年どおり国際セッションが設けられます。この国際セッションは、日韓廃棄物学会の交流事業の一環として行われ、毎年日本からも多くの会員が参加し、論文を発表しています。みなさまの参加を期待いたします。

発表論文 英文で A4 版用紙 3 枚以内

発表方法 ポスター

提出締切 2006 年 3 月 31 日(水)

提出・問合せ先 廃棄物学会事務局(下記参照)

廃棄物学会後援、岡山大学 21 世紀 COE プログラム「循環社会への戦略的廃棄物マネジメント」主催

環境科学技術シンポジウム 2006

開催日時: 平成 18 年 1 月 20 日(金) 9:30~18:00

開催場所: 岡山コンベンションセンター(岡山市)

参加費: 無料

申込締切: 平成 17 年 12 月 28 日(水)

申込方法: 下記 HP に掲載の申込用紙をご利用ください。

申込問合せ先: 21 世紀 COE「循環社会への戦略的廃棄物マネジメント」事務局(担当: 小橋)

TEL&FAX 086-251-8857 <http://www.sswmss.jp/>

廃棄物学会協賛、埋地地再生総合技術研究会主催

「埋地地再生総合技術研究会」研究報告会

開催日時: 平成 18 年 1 月 24 日(火) 13:00~16:45

開催場所: 全共連ビル 4 F 中会議室(東京都千代田区)

参加費: 無料

定員: 100 名

申込締切: 平成 18 年 1 月 17 日(火)

申込方法: 自治体名、住所、所属、連絡者名、参加者数、電話番号、FAX 番号、E-mail、をご記入の上、FAX にて、下記までご連絡ください。

申込問合せ先: (財)日本環境衛生センター(担当: 羽染、中越)

TEL 044-287-3252 FAX 044-287-3255

次号(学会ニュース No. 91)は 3 月 1 日発行予定です

会 員 状 況	
	H17. 11. 30 現在 () 内は、H17. 4. 1 以降の増減
正 会 員	3,459 (26)
学生会員	370 (64)
外国人会員(DM)	26 (4)
登録団体市民会員	4 (1)
公益会員	111 (2)
賛助会員	176 (1)
計	4,146 (98)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 90 平成 18 年 1 月 1 日発行

廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

<http://www.jswme.gr.jp>



印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.55 (January)

発行のお知らせ

英文ニューズレター第 55 号が発行されます。

※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会 HP から入手できます。

(主要目次)

会長新年挨拶 : 山本和夫会長

廃棄物分野の ODA : カトマンズ盆地都市(ネパール)における廃棄物管理計画調査

廃棄物技術動向 : 優良小型焼却炉の評価事業

国際セッション報告: 国際シンポジウム「循環型社会構築への戦略」

国際ポスターセッション

学会活動紹介 : アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催

The contents of No.55

1 New Year Greeting from JSWME President, Prof. Kazuo Yamamoto

2 Japan's ODA on SWM:

- JICA Study on SWM in Kathmandu City, Nepal -

3 Brief Note on SWM in Japan: - Evaluation System of Small-sized Incinerator -

4 Report on Internal Session in the JSWME's 16th Annual Conference:

- Japan-Korea Session on "Toward Sustainable Society by promoting 3Rs"

- International poster session

5 Report on "Expert Meeting on SWM in Asia and Pacific Islands"

6 Cartoons by High Moon:

＝ 事務局年末年始休暇 ＝

平成 17 年 12 月 29 日(木)～平成 18 年 1 月 4 日(水)

☆☆事務局だより☆☆

昨年は、田中会長、藤本副会長を相次いで失うなど、廃棄物学会にとって悲しい出来事が続きました。一方、学会の外では、京都議定書の発効、3R イニシアティブ閣僚会合の開催、クールビズ(ウォームビズ)の流行など、資源循環・環境保全型社会への流れが、出来上がりつつあるように感じられる 1 年でした。今年は、これらの流れに成果を積み上げ、循環型社会の中身を作っていく年になるのではないのでしょうか。今後、当学会が貢献できる場面も多くなるのではないかと期待します。

廃棄物学会では、昨年、新たな試みとして、研究発表会の電子投稿受付を開始しました。また、全支部のホームページが開設されるなど、情報発信・交換の IT 化が進んだ 1 年でした。昨年の仙台大会で、研究発表会が全国を一巡し、今年の北九州大会からは、言わば二巡目となります。広報委員会は、新たなフェーズに入った当学会を、学会ニュース、ホームページ等を通して、サポートしていきます。

本年も廃棄物学会と学会ニュースをよろしく願います。(松本礼史)